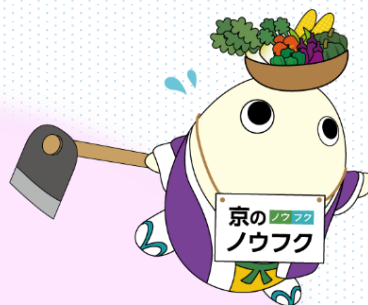


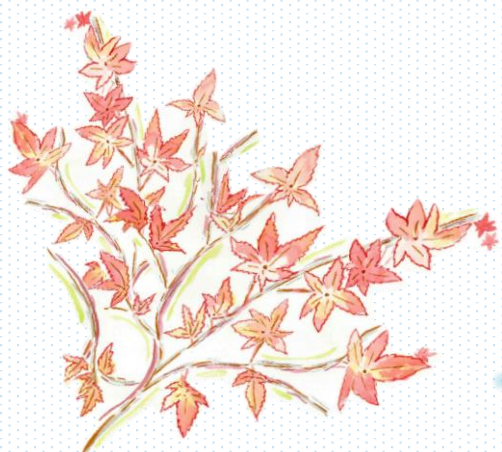


地域とつながる！



のう ふく
農福連携

きょうとおとくに版
事例集



はじめに

農福連携とは、農業と福祉が連携し、障害者等が適性に応じて農作業を行うことで、農業にとっては労働力の確保、福祉にとっては障害者等の就労促進を目指す取組のことです。

農地が限られている京都乙訓地域では、野菜の収穫、選別や袋詰めといった農作業の一部を、福祉事業所が農家から請け負う形が新たに広がっています。

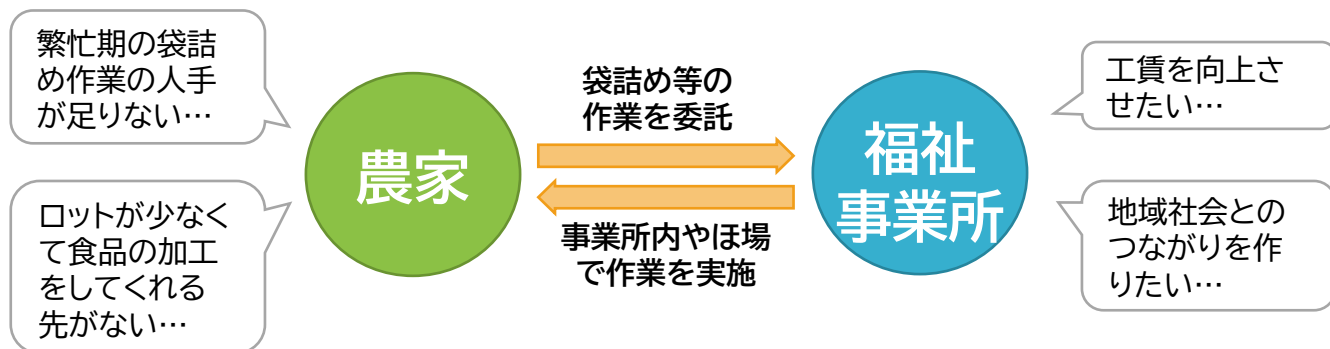
本事例集では、こうした農作業の受委託をさらに進めていくため、京都乙訓地域の先進的な取組をいくつか紹介しています。実際に取り組んでおられる方々の声が、今後の新たな取組につながれば幸いです。

目次

■ 京都乙訓地域での取組の流れ	2
■ 取組品目の紹介（主な地域と作業時期）	3
■ 作業受委託の取組事例【基礎編】	4
京おくらの選別・袋詰め	5
たまねぎの植え付け・収穫など	7
小松菜の食品加工	8
■ 農家による障害者雇用の取組事例【発展編】	9
いちごの生産者	10
■ マニュアル例	11
■ よくある質問	13
■ お問合せ先	14

京都乙訓地域での取組の流れ

農福連携には、農家が直接障害者を雇用する方法や、福祉事業所が自ら農業を行う方法もありますが、新たに取り組みやすい方法としては、農家が福祉事業所に農作業を委託する方法があります。



こうした方法では、福祉事業所の職員が障害者(福祉事業所の利用者)に付き添って作業を説明・指示するため、農家が直接利用者に作業を説明・指示することはありません。また、繁忙期などの短い期間や単発での委託も可能です。

農作業受委託のマッチングは、京都ほっとはあとセンター(農福連携コーディネーター)が支援します。

マッチングの流れ



1

委託作業の検討・相談

作業を委託したいと思われたら、普及センターに相談してください

2

福祉事業所への案内

京都ほっとはあとセンターが近隣の福祉事業所へよびかけます

3

打合せ・見学

作業内容、作業時間、委託金額などの諸条件について打合せを行います。また、障害のある方でも可能な作業かどうか確認するため、事業所職員が農作業体験や見学をすることがあります

4

委託契約締結

条件や作業内容をすり合わせ、福祉事業所と委託契約を締結します

5

作業開始

利用者(障害のある方)への説明や指示は、支援者(福祉事業所職員)が行います

取組品目の紹介（主な地域と作業時期）

★：播種（種まき） ◆：定植（苗の植えつけ） ⇄：収穫 □：福祉事業所の作業例

【作業受委託の取組事例】

品目（主な地域）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
京おくら（露地） 京都市西京区、伏見区、向日市、長岡京市、大山崎町など	★	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄					
												
たまねぎ（露地） 京都市伏見区、南区、西京区など		⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	◆				
小松菜（露地） 京都市西京区など			★	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄
いちご（ハウス） 京都市西京区、北区、右京区、山科区など								◆	⇄	⇄	⇄	⇄

【障害者雇用の取組事例】

作業受委託の取組事例

【基礎編】

■ 京おくらの選別・袋詰め

家村和徳さん×ソラスタン
田中秀幸さん×Find Life



■ たまねぎの植え付け・収穫など

中嶋農園×ぎばさん



■ 小松菜の食品加工

大崎里恭さん×あおい苑



京おくらの選別・袋詰め（家村和徳さん×ソラストン）

作業を依頼した農家



家村和徳さん
（伏見区淀）



依頼の きっかけ

家族経営で作業できる人数が限られており、午前中から夕方まで選別・袋詰め作業をしていたため、JAを通して作業を依頼しました。選別・袋詰め作業の時間が減りとても助かったため、3年間依頼しています。

工夫した ところ

福祉事業所に安心して作業してもらえるよう、JAとも連携して作業方法や選別基準等についてアドバイスしました。また、ほ場を実際に見てもらう機会を設けました。

感想

選別・袋詰め作業を依頼したことで、他の管理作業に時間を使うことができました。これからも作業をお願いしたいと思っています！

農家は収穫したオクラを
コンテナで引き渡し

福祉事業所が選別と
袋詰めを行い、納品

作業を請け負った福祉事業所

作業の 様子

6月下旬から9月上旬に週5回、事業所内で利用者3～4人と職員1名で作業しました。作業には1日あたり4時間かかりました。

工夫した ところ

最初は週2回からスタートし、徐々に回数を増やしました。家村さんとすぐに連絡が取れるようにし、相談しながらスムーズに進めることができました。

感想

利用者の方は様々な形状のオクラに非常に興味を持ちながら作業に取り組んでおり、利用者の方の自信向上につながったのでよかったです。



就労継続支援B型事業所
ソラストン

京おくらの選別・袋詰め (田中秀幸さん×Find Life)

作業を依頼した農家



田中秀幸さん
(西京区大原野)



依頼の きっかけ

就農2年目に京おくらの面積を拡大したので、収穫作業に集中するために、作業を依頼することにしました。すでに取り組んでいた家村さんに勧めてもらったことが大きな後押しとなりました。

工夫した ところ

福祉事業所によって納品スケジュールが異なるため、今年は曜日ごとに2か所の事業所に依頼し、選別・袋詰め時間を短縮できるようにしました。

感想

畑の管理に十分な時間がとれたことで、オクラの品質が良くなり、今年は去年の1.6倍も出荷することができました。これからもぜひ福祉事業所に作業をお願いしたいと思っています！

農家は収穫したオクラを
コンテナで引き渡し

福祉事業所が選別と
袋詰めを行い、納品

作業を請け負った福祉事業所

作業の 様子

7月中旬から10月上旬に週3回、事業所内で利用者5名程度と職員2名で作業しました。作業には1日あたり3時間かかりました。

工夫した ところ

選別しやすいように、サイズを判断するプラスチック板を作ったり、カゴに色テープを貼ったりしました。

感想

利用者のできる作業が限られている中、野菜の袋詰めはスーパー等への就職にもつながるため、とても良い経験となりました。だんだんと作業への愛着が生まれて、利用者の通所率も上がりました！



就労継続支援B型事業所
Find Life

たまねぎの植え付け・収穫など（中嶋農園×ぎばさんワークスタジオ伏見）

作業を依頼した農家



株式会社 中嶋農園
（伏見区向島）

依頼の きっかけ

中嶋農園のすぐ近くに福祉事業所の畑があるため、一緒に取組ができないかと声をかけたのがきっかけです。今では、たまねぎの他におくらの収穫やさつまいも、にんにく等、色々な野菜の畑作業を依頼しています。

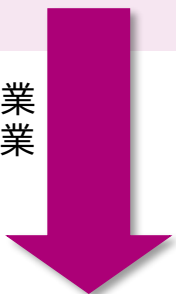
工夫した ところ

お互いにとってプラスとなる関係を続けられるよう、作業の効率化や金額等について、福祉事業所の職員と丁寧に話し合うようにしています。

感想

従業員だけでは手が回らなかったところ、適期を逃さずにたまねぎの作業を進めることができました。また、農作業を依頼したことで自社の農業生産の効率化・経営向上につながりました。

農家は福祉事業所の職員に作業を説明・実演



福祉事業所が植え付けや収穫などを実施



作業を請け負った福祉事業所

作業の 様子

中嶋農園から通年で畑の作業を請け負っており、利用者7名と職員1名でたまねぎの植え付けや除草、収穫、早朝からおくらの収穫を行いました。

工夫した ところ

植え付け作業を効率化するため、一度で30個の植え穴を開けられる道具を利用者が作ってくれました。とても便利なので、中嶋農園に貸し出すこともあります。

感想

職員も農業の経験がほとんどないため、利用者と一緒に勉強しながら作業しています。事業所の畑の畝立てを中嶋さんにしてもらったり、販売先・配送について協力しているので、お互いにプラスの関係を構築できていると感じています。



就労継続支援A型事業所
ぎばさん
ワークスタジオ伏見

小松菜の食品加工（大崎里恭さん×あおい苑）

作業を依頼した農家



大崎里恭さん
(西京区大原野)



依頼の きっかけ

小松菜を一年通して生産するようになったことをきっかけに、葉に穴があいている等の理由で市場に出荷できない規格外の小松菜を活用したいと考えました。

工夫した ところ

福祉事業所や京都ほっとはあとセンターの担当者に畑まで来てもらい、規格外の小松菜の状態や品質を確認してもらいました。

感想

市場に出荷できず捨てるしかなかった規格外の小松菜を買い取ってもらうことができ、助かりました。商品のパッケージやチラシで「西京区大原野産」とアピールしてもらい、新たな宣伝にもつながりました。

福祉事業所が農家から
規格外の小松菜を買い取り

福祉事業所が新たな
加工商品を製造
イベントで販売



作業を請け負った福祉事業所

作業の 様子

「菊芋入り小松菜ケーキ」に加え、パウダー化した小松菜を使った小松菜せんべいを新たに開発しました。

工夫した ところ

着色料を使わずに、小松菜の鮮やかな緑色を表現し、せんべいについてはアレルギーフリーにしました。また、左京区大原百井町産の菊芋を混ぜることで、野菜の甘みを引き出し、マーブル模様にも成功しました。

感想

高品質な規格外の小松菜を仕入れることができ、助かりました。ノウフクマルシェin京都府農林水産フェスティバル等で販売し、リピーターの方を増やすことができました。



就労継続支援B型事業所
あおい苑

農家による障害者雇用の取組事例

【発展編】

■ いちごの生産者

みつばちBunBun
クロスケの大原野げんき畑



農福連携に取り組む農家の中には、福祉事業所に農作業の一部を委託するだけでなく、障害者を直接雇用することで、就労の機会を広げるとともに、農業経営のさらなる発展につなげている方もいます。

ここでは、実際に京都乙訓地域で障害者雇用に取り組む生産者を紹介します。

いちごの生産者（みつばちBunBun クロスケの大原野げんき畑）



みつばちBunBun
クロスケの大原野げんき畑
クロスケさん

みつばちBunBunクロスケの大原野げんき畑のクロスケさんは、西京区大原野でいちご狩りの農園を運営しており、福祉事業所への作業委託や障害のある従業員の雇用に取り組んでいます。

クロスケさんは、平成25年に新規就農し、現在は2棟のハウスで約30種類ものいちごを栽培しています。当初は近所のボランティア等を中心に作業を依頼していましたが、令和5年に京都市主催の農福連携マッチング会に参加したことをきっかけに、通年で福祉事業所へ作業を依頼するようになりました。

依頼内容は、いちごの定植、摘葉、収穫、パック詰めのほか、いちご狩りのチラシ作りまで多岐にわたります。また、いちごの作業がない夏の時期には、京おくらや菜の花の播種、収穫、選別、袋詰めなど幅広い作業を委託しています。

さらに、令和6年から、新たに障害のある従業員1名を雇用し、ハウス内の夏の暑さ対策など、働きやすい環境の整備にも積極的に取り組んでいます。

今後は、企業等と農福連携の面から関わっていききたいとのことでした。

普及センターとともに作成した いちごの作業マニュアル

いちごの収穫

ヘタに一番近いつぼぶまで赤くなったいちごを見つけたら、ヘタの上をもって、はさみで茎を切ります。

実にはさらないようにヘタの上をもつ

茎を2cmほど残して切る

ヘタに一番近いつぼぶまで赤い

ヘタに一番近いつぼぶまで赤いのが、甘く熟している証拠です。

準備するもの

はさみ コンテナ 台車

イチゴは、白い花が咲いた後の中心部分が大きくなり、実が大きくなるにつれて、「緑→白→赤」と色が変わっていきます。

利用者(障害者)向け

イチゴ 収穫・パック詰め

作業の時期	準備するもの
12月～5月前半（ハウス栽培）	・ハサミ ・パック ・トレイ ・フィルム ・セロテープ ・品種名シール ・秤

作業のやり方	メモ
1 ヘタの下的一段目の粒々まで赤くなったイチゴを見つけたら、実にはさらないようにヘタの上の部分を持って、ハサミで茎を2cmほど残して切り取ります。 茎を2cmほど残す 実にはさらないようにヘタの上を持つ 収穫したイチゴは、傷がつかないように緩衝材を敷いたコンテナに並べ、パック詰め場所へ運びます。	イチゴは、白い花が咲いた後の中心部分が大きくなり、実になります。 実が大きくなるにつれて、「緑→白→赤」と色が変わっていきます。 イチゴの花 緑や白の実
2 パックの場合は、まずパック片側の奥から手前に向かって、イチゴを一列に並べていきます。 奥から手前に一列に並べる イチゴの先のほうを上向きにして並べる 実にはさらないようにヘタの上をもつ	並べるときも、実にはさらないようにヘタの上の部分を持ちます。 イチゴの先のほうは、やわらかくつぶれやすいので、パックの底につかないよう、上向きにして並べます。
3 片側に一列並べたら、反対側にも一列並べ、最後に中央一列に二段目のイチゴを並べます。	イチゴの先のほうがパックの外側を向くようにします。

支援者(福祉事業所の職員や特別支援学校の教員等)向け

マニュアル例

利用者向け

こまつ菜の袋づめ①

商品にならない葉を、根元から手で取りのぞきます。

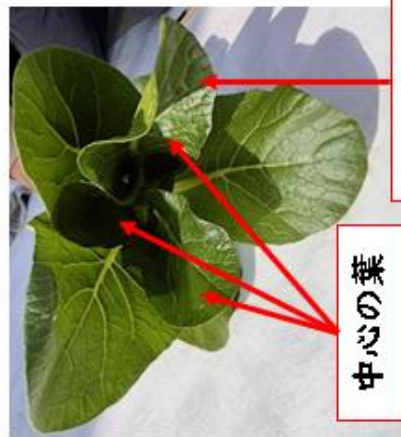
準備するもの

出荷袋
はかり
袋入れシート
セロテープ



商品にならない葉

- ・色がうすく、しおれた葉
- ・外がわの固い葉
- ・茎が折れた葉
- ・枯れた葉
- ・虫がついている葉
- ・虫食いがある葉



中心の葉

一番長い葉

中心にある葉のうち一番長い葉を探します



その葉の外側にある葉を根本から手で落とします

汚れていたら
布でふきます

②へつづく...



こまつ菜の袋づめ②

210g以上となるよう株を組み合わせ、袋入れシートでつつみます。
そのまま出荷袋の一番奥まで入れたら、シートだけ引き抜きます。
最後に袋の口を裏側へ折りこんで、セロテープで1か所とめたら完成です。



210g以上



株の根本をそろえる



くるむ



くるんだまま
袋に入れる



袋の一番奥まで
入れる



シートだけ
上に引き抜く



セロテープで
とめる

完成！

よくある質問

【農家向け】

Q1 お願いする作業はどのように決めたら良いですか

まずは普段の作業工程を細かく分解して、お願いしたい作業を切り出してみましょう。普及センターも、作業の切り出しやマニュアル化をお手伝いします！

Q2 障害がある方とのコミュニケーションが不安です

利用者への作業説明や指示は福祉事業所の職員が行うため、農家が直接声かけしたり指示することはありません。

Q3 委託費はどのように決めたら良いですか

マッチングを仲介する京都ほっとはあとセンター、農家、福祉事業所の話し合いで決定します。

Q4 委託したい期間や量が限られていても良いですか

繁忙期など短い期間での委託も可能です。また、毎日決まった量を委託できなくても構いません。

Q5 早朝や夕方に作業を委託することは可能ですか

多くの障害者就労施設では、利用者の通所時間が10時から15時に設定されています。そのため、早朝や夕方の作業ではなく、通所時間に合わせた作業内容の検討をお願いします。

【福祉事業所向け】

Q1 農業の経験がある職員がいなくても良いですか

普及センターでは、全く農業の経験がない方でも分かるような作業マニュアルを作成しています。また、普及センターで毎年開催している「農業基礎講座」を聴講していただくことも可能ですので、御関心があればぜひお問い合わせください。

Q2 農家の畑まで行って作業しなければならないのですか

本事例集で紹介したケースのように、選別・袋詰め作業や食品加工等、事業所の施設内で出来る作業もたくさんあります。

Q3 作業の実演を見学したり、お試いで作業することはできますか

正式な契約の前に、農家が作業を説明・実演したり、少量をお試いで作業してみたりすることも可能です。

Q4 作業に必要な道具(はさみ、はかり等)は借りられますか

農家から借りられる場合もあるので、まずは農家やマッチングを支援する関係機関に相談してみてください。

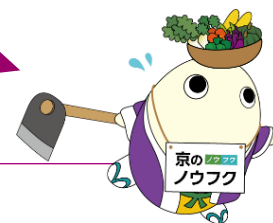
Q5 通年で作業を請け負うことはできますか

本事例集の3ページにある暦のとおり、年間を通して様々な作業のニーズがあります。通年で作業を希望される場合は、ぜひ京都ほっとはあとセンター等へお問い合わせください。

ご不明点があれば、ぜひサポート機関へお問い合わせください！

お問合せ先

私たちが皆さまを
サポートします！



- ✓ 本事例集に掲載した内容全般について知りたい方
- ✓ 農作業の委託や作業のマニュアル化に関心のある方
- ✓ 京都府の補助事業について知りたい方

京都府
京都乙訓農業改良普及センター
TEL 075-315-2906

- ✓ 京おくらの農福連携の取組について知りたい方

JA京都中央
経済部 営農販売課
TEL 075-932-0003

- ✓ 府内で農福連携を実践している福祉事業所※の取組について知りたい方

※所在地により問い合わせ先が変わります。

【京都市】
京都市
保健福祉局 障害保健福祉推進室
TEL 075-222-4161
【向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町】
京都府
健康福祉部 障害者支援課
TEL 075-414-4596

- ✓ 農作業受委託のマッチングを希望する方

NPO法人
京都ほっとはあとセンター
TEL 075-255-0355

地域とつながる！農福連携 きょうとおとくに版事例集

令和8年6月発行

- 発行……………京都府京都乙訓農業改良普及センター
- 企画協力……………農福連携に取り組む京都乙訓管内の農家、福祉事業所の皆さん
- 表紙等イラスト…株式会社しんやさい 山部知歩さん